

## 聖体に示される三位の愛のいのち

主任司祭 吉池 好高

聖霊降臨の祭日を経て、教会の典礼歴は年間の季節を迎えています。王であるキリストの祭日に至る典礼歴のこの年間の季節は、主の復活と聖霊降臨によってこの世界の歴史の中に誕生した教会の、世の終わりまで続く「現在」を指し示しています。私たちは、その教会の働きの「現在」において、教会と出会い、洗礼を受けて、カトリック信者となったのです。教会の「現在」において、洗礼によって神の恵みに与った私たちは、その福音を告げ知らせる教会の使命を生きるカトリック信者として、それぞれの「現在」に派遣されているのです。

主の復活と聖霊降臨によって、この世界の歴史の中に誕生した教会の「現在」の中で、洗礼の秘跡によって誕生した私たちのカトリック信者として生きる「現在」は、教会の典礼歴が年間のこの季節の初めに祝う、三位一体の神の愛の神秘と、それを指し示すキリストの聖体の神秘のもとにあります。

ミサの中で、パンとブドウ酒をささげて司祭は次のように祈ります。「神よ、あなたは万物の造り主。ここに供えるパン（とブドウ酒）はあなたからいただいたもの。大地の恵み、労働の実り。わたしたちのいのちの糧となるものです」。今日も私たちのいのちを養ってくださる、万物の創造主、父なる神への感謝の祈りです。けれども、人はパンだけで生きる者ではありません。そのことをご存知の私たちのいのちの源である父なる神は、自らのいのちのみことばである御子を、肉ある者として、この罪の世に遣わしてくださったのです。肉となってこの世に来られた神の子イエス・キリストは、肉の世の罪を一身に背負って、罪のゆるしをもたらすために、自ら進んで十字架の死に渡されたのです。

「取って、食べなさい。これはあなた方のために渡されるわたしの体である」。「受けて飲みなさい。これは私の血の杯。あなた方と多くの人のために流されて罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血である」。神のいのちの息吹である聖霊を呼び求めて司祭が唱えるこのことばによって、御父と御子の愛のいのちが、教会の「現在」を生きる私たちの糧となるのです。